

令和 5 年度第 2 回福岡県医薬品適正使用促進連絡協議会

薬局実態調査結果

福岡県保健医療介護部薬務課から公益社団法人福岡県薬剤師会に依頼し、会員薬局に対してポリファーマシーの取組等について、WEB アンケートの回答の協力を求めたところ、重複等を除き 451 件（店舗）から回答を得た。この資料は集計結果を取りまとめたものである。

背景

令和 4 年度、一般社団法人福岡県病院薬剤師協会に委託して実施した病院実態調査結果、次の 2 点が判明。

- 病院実態調査により、入院患者に対するポリファーマシー対策の実態は確認できたが、外来患者に対する取組状況について十分に把握できていない。
- 「患者数としては圧倒的に外来の方が多いため、薬局又は外来でどう取り組むのか、こちらの対策が今後の課題」との意見あり。

そのため、外来診療におけるポリファーマシー対策や医療機関と薬局との連携状況等の現状を把握することを目的として、薬局を対象としたアンケート調査を実施し、処方適正化への取組状況や認識等について実態を把握し、今後の方策について検討する。

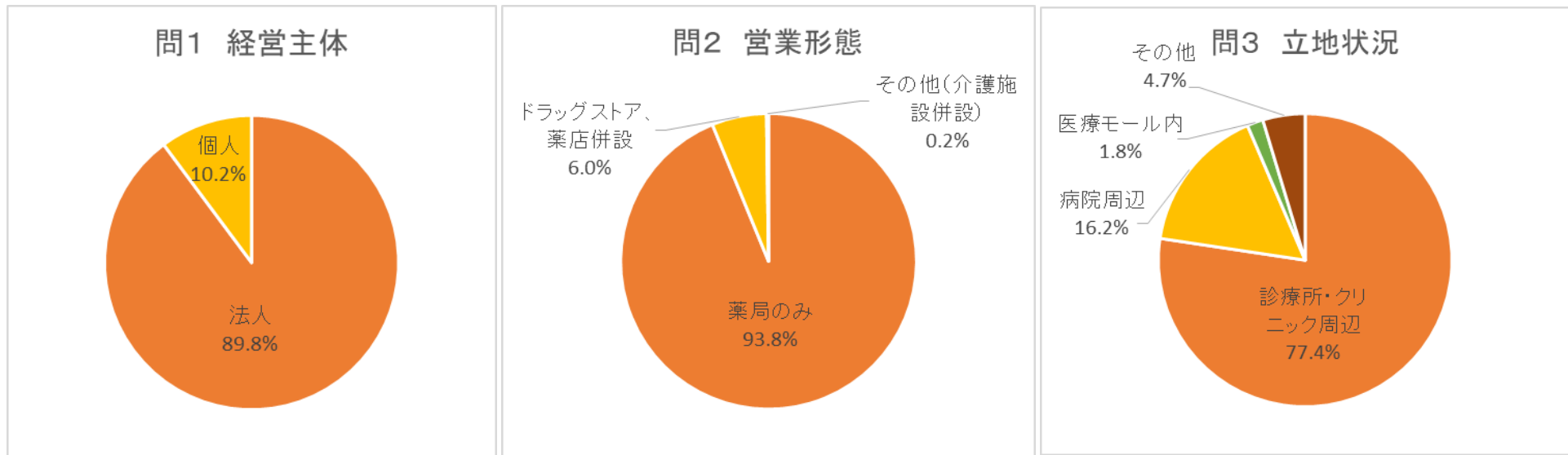
目的

- 積極的な取組等を行っている薬局の把握。
- 課題の抽出、効果検証の判断材料の一つとして活用。

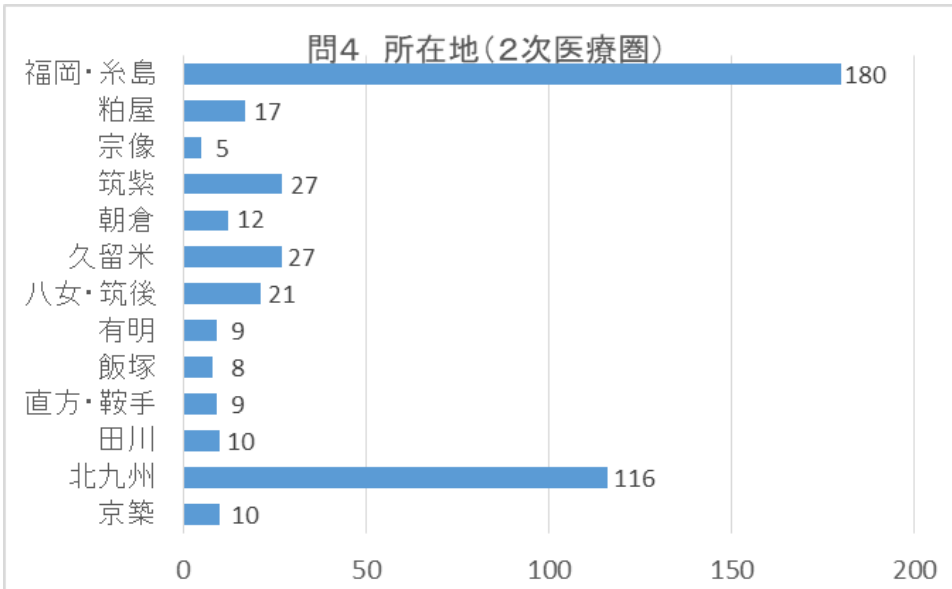
調査方法

- WEB アンケート方式で公益社団法人福岡県薬剤師会に協力を依頼し、会員薬局から回答を募集
- 設問数 30 問
- 回答期間 令和 5 年 12 月 26 日～令和 6 年 2 月 3 日
- 有効回答 451 件（参考：令和 6 年 1 月末時点会員薬局数 2,408）

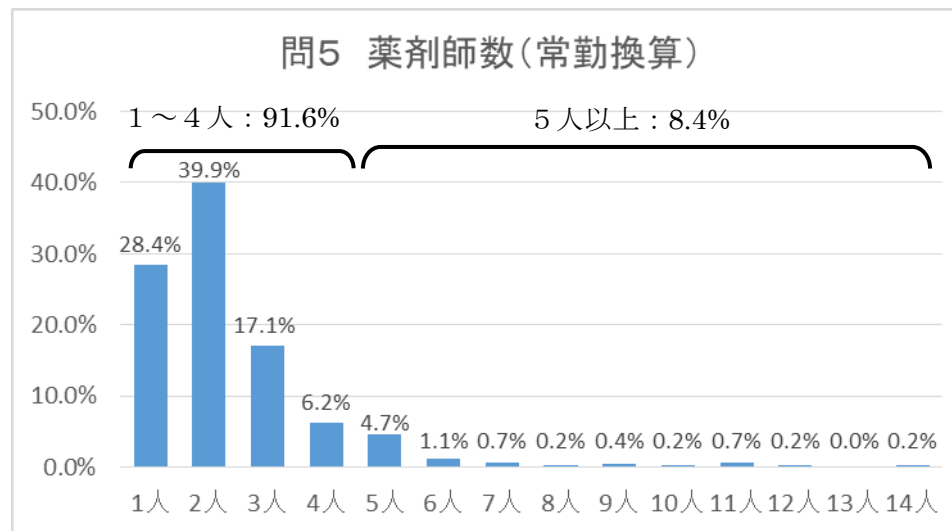
質問	回答	回答数	割合
問1 経営主体を選択してください。	法人	405	89.8%
	個人	46	10.2%
問2 営業形態を選択してください。	薬局のみ	423	93.8%
	ドラッグストア、薬店併設	27	6.0%
	その他(介護施設併設)	1	0.2%
問3 立地状況を選択してください。	診療所・クリニック周辺	349	77.4%
	病院周辺	73	16.2%
	医療モール内	8	1.8%
	その他	21	4.7%



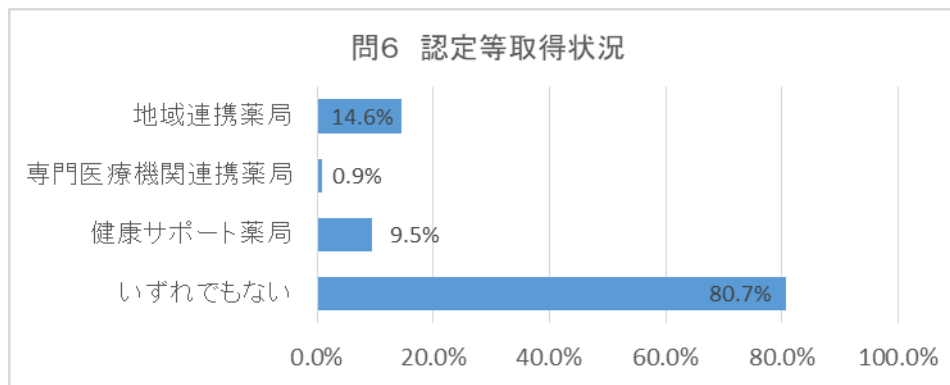
質問	回答	回答数	割合
問4 所在地(2次医療圏)を選択してください。	福岡・糸島	180	39.9%
	粕屋	17	3.8%
	宗像	5	1.1%
	筑紫	27	6.0%
	朝倉	12	2.7%
	久留米	27	6.0%
	八女・筑後	21	4.7%
	有明	9	2.0%
	飯塚	8	1.8%
	直方・鞍手	9	2.0%
	田川	10	2.2%
	北九州	116	25.7%
	京築	10	2.2%



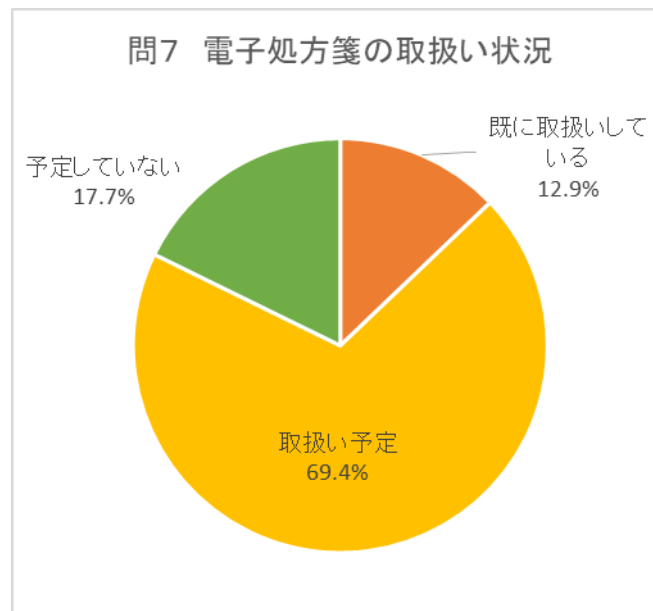
質問	回答	回答数	割合
問5 薬剤師数(常勤換算)を入力してください。	1人	128	28.4%
	2人	180	39.9%
	3人	77	17.1%
	4人	28	6.2%
	5人	21	4.7%
	6人	5	1.1%
	7人	3	0.7%
	8人	1	0.2%
	9人	2	0.4%
	10人	1	0.2%
	11人	3	0.7%
	12人	1	0.2%
	14人	1	0.2%



質問	回答	回答数	割合
問6 認定薬局、健康サポート薬局の認定等取得状況を選択してください。(複数選択可)	地域連携薬局	66	14.6%
	専門医療機関連携薬局	4	0.9%
	健康サポート薬局	43	9.5%
	いずれでもない	364	80.7%

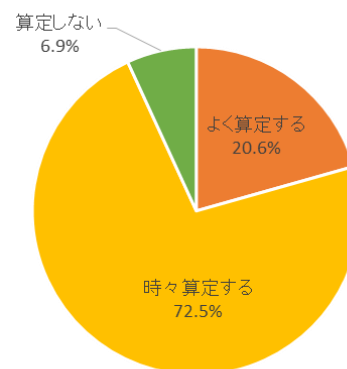


質問	回答	回答数	割合
問7 電子処方箋の取扱い状況を選択してください。	既に取り扱っている	58	12.9%
	取扱い予定	313	69.4%
	予定していない	80	17.7%

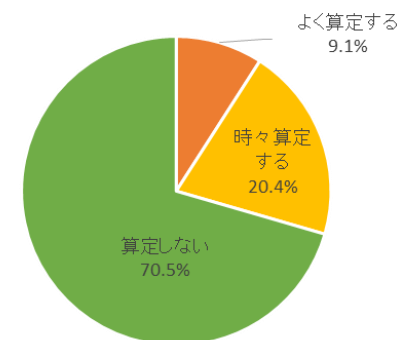


	質問	回答	回答数	割合
問8	「重複投薬・相互作用等防止加算」の算定状況を選択してください。	よく算定する	93	20.6%
		時々算定する	327	72.5%
		算定しない	31	6.9%
問9	「調剤管理加算」の算定状況を選択してください。	よく算定する	41	9.1%
		時々算定する	92	20.4%
		算定しない	318	70.5%
問10	「服用薬剤調整支援料1」の算定状況を選択してください。	よく算定する	9	2.0%
		時々算定する	100	22.2%
		算定しない	342	75.8%
問11	「服用薬剤調整支援料2」の算定状況を選択してください。	よく算定する	22	4.9%
		時々算定する	105	23.3%
		算定しない	324	71.8%
問12	「地域支援体制加算」の算定状況を選択してください。	よく算定する	198	43.9%
		時々算定する	14	3.1%
		算定しない	239	53.0%
問13	「かかりつけ薬剤師指導料」の算定状況を選択してください。	よく算定する	91	20.2%
		時々算定する	195	43.2%
		算定しない	165	36.6%

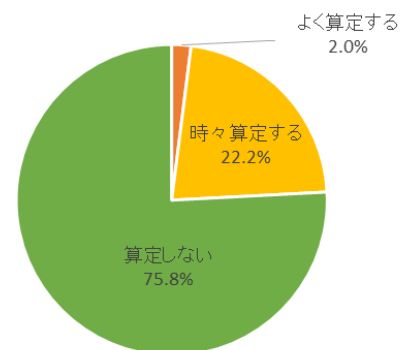
問8 「重複投薬・相互作用等防止加算」の算定状況



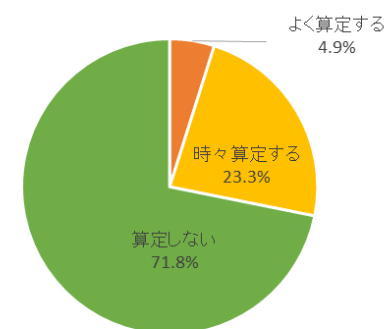
問9 「調剤管理加算」の算定状況



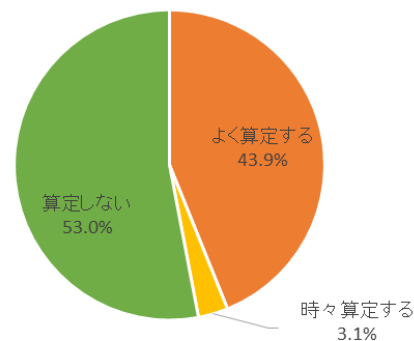
問10 「服用薬剤調整支援料1」の算定状況



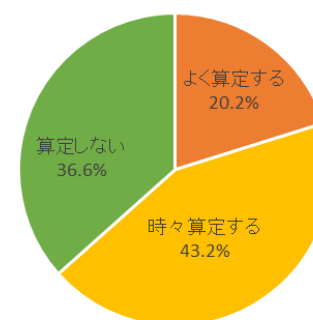
問11 「服用薬剤調整支援料2」の算定状況



問12 「地域支援体制加算」の算定状況

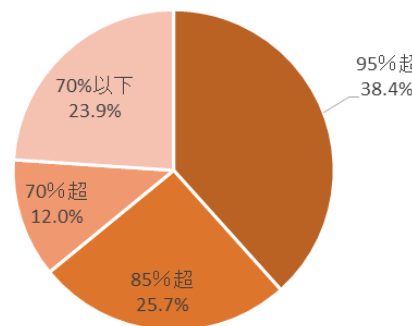


問13 「かかりつけ薬剤師指導料」の算定状況

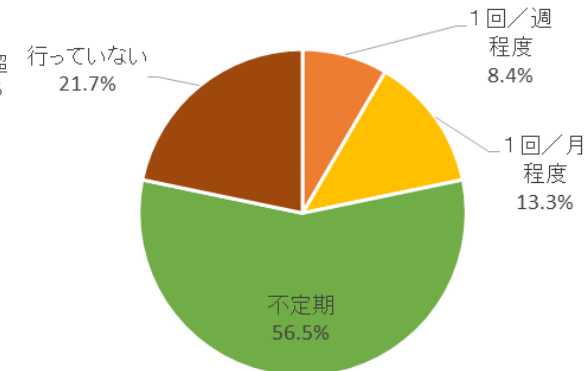


	質問	回答	回答数	割合
問14	処方せんの集中率を選択してください。	95%超	173	38.4%
		85%超	116	25.7%
		70%超	54	12.0%
		70%以下	108	23.9%
問15	クリニック／病院と意見交換会やミーティング、勉強会等を行っていますか。	1回／週 程度	38	8.4%
		1回／月 程度	60	13.3%
		不定期	255	56.5%
		行っていない	98	21.7%
問16	クリニック／病院へ処方箋に関する疑義照会を行いますか。	よく行う	286	63.4%
		時々行う	160	35.5%
		あまりしない	2	0.4%
		しない	3	0.7%
問17	クリニック／病院へ処方箋以外の情報提供(薬剤や患者に関する事項など)を行いますか。	よく行う	100	22.2%
		時々行う	282	62.5%
		あまりしない	62	13.7%
		しない	7	1.6%

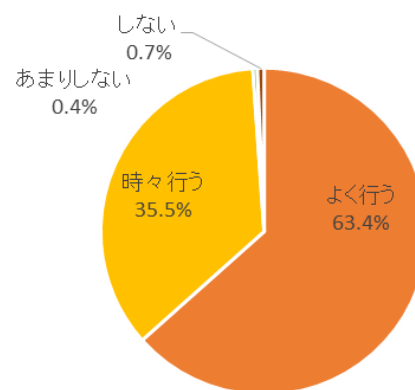
問14 処方箋の集中率



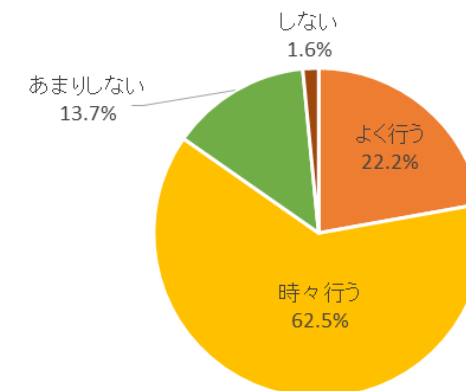
問15 クリニック／病院と意見交換会やミーティング、勉強会等の頻度



問16 クリニック／病院へ処方箋に関する疑義照会頻度

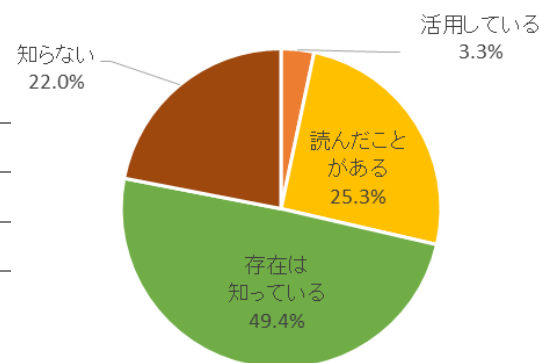


問17 クリニック／病院へ処方箋以外の情報提供(薬剤や患者に関する事項など)頻度

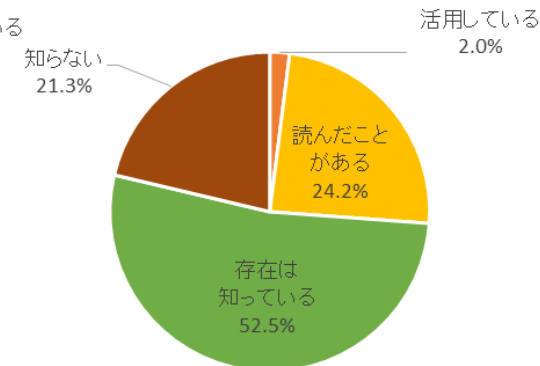


質問	回答	回答数	割合
問18 日本老年医学会「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015」はご存じですか。	活用している	15	3.3%
	読んだことがある	114	25.3%
	存在は知っている	223	49.4%
	知らない	99	22.0%
問19 厚生労働省「高齢者の医薬品適正使用の指針」はご存じですか。	活用している	9	2.0%
	読んだことがある	109	24.2%
	存在は知っている	237	52.5%
	知らない	96	21.3%

問18 日本老年医学会「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015」について



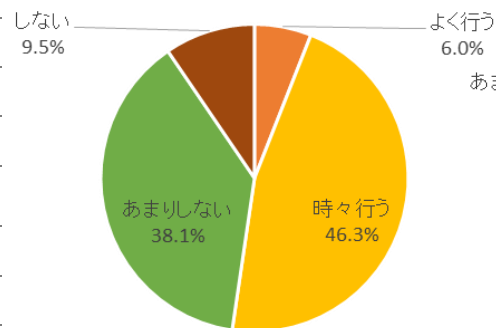
問19 厚生労働省「高齢者の医薬品適正使用の指針」について



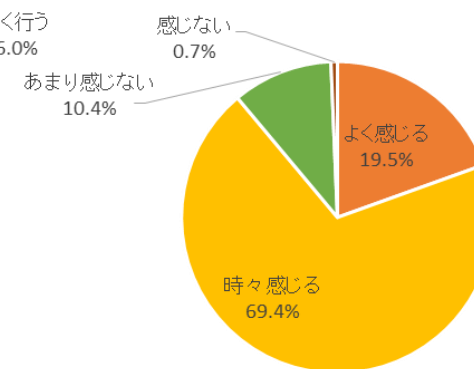
		問18 日本老年医学会「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015」について				
		活用している	読んだことがある	存在は知っている	知らない	総計
問19 厚生労働省「高齢者の医薬品適正使用の指針」について	活用している	8	1			9
	読んだことがある	5	80	23	1	109
	存在は知っている	2	31	177	27	237
	知らない		2	23	71	96
	総計	15	114	223	99	451

質問	回答	回答数	割合
問20 重複処方除く同効薬の多剤投与について、減薬の提案を行っていますか。	よく行う	27	6.0%
	時々行う	209	46.3%
	あまりしない	172	38.1%
	しない	43	9.5%
問21 重複処方除く同効薬の多剤投与について、減薬の必要性をどの程度感じたことがありますか。	よく感じる	88	19.5%
	時々感じる	313	69.4%
	あまり感じない	47	10.4%
	感じない	3	0.7%

問20 重複処方除く同効薬の多剤投与について、減薬の提案を行う頻度



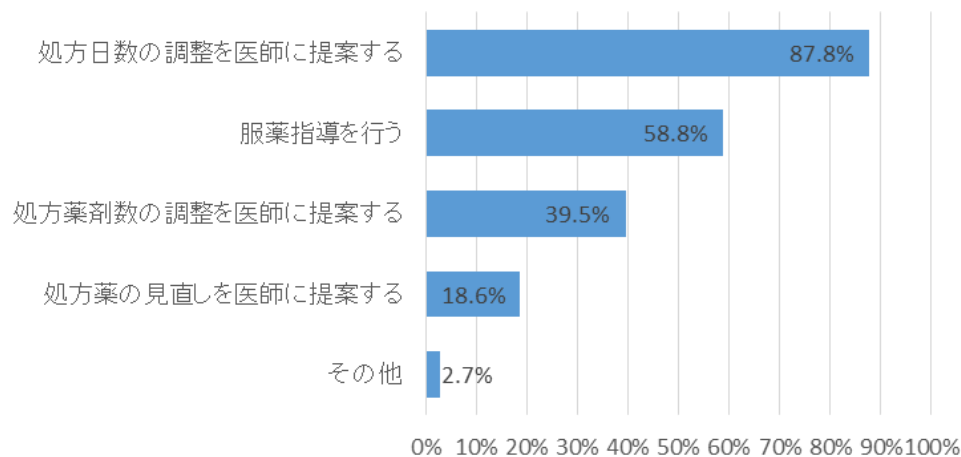
問21 重複処方除く同効薬の多剤投与について、減薬の必要性をどの程度感じたことがあるか



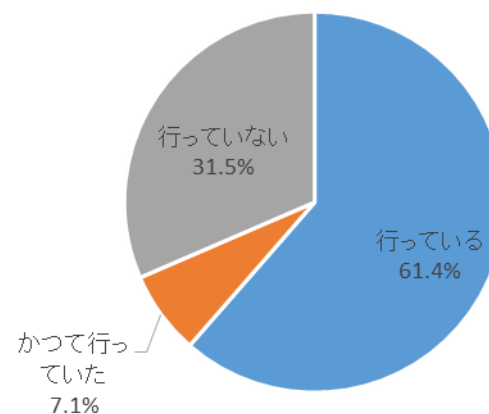
		問20 重複処方除く同効薬の多剤投与について、減薬の提案を行っていますか。				総計
		よく行う	時々行う	あまりしない	しない	
問21 重複処方除く同効薬の多剤投与について、減薬の必要性をどの程度感じたことがあるか	よく感じる	19	53	14	2	88
	時々感じる	8	147	128	30	313
	あまり感じない		8	29	10	47
	感じない		1	1	1	3
総計		27	209	172	43	451

質問	回答	回答数	割合
問22 残薬がある場合、主にどのような対応を行いますか(複数回答可)。	処方薬剤数の調整を医師に提案する	178	39.5%
	処方日数の調整を医師に提案する	396	87.8%
	処方薬の見直しを医師に提案する	84	18.6%
	服薬指導を行う	265	58.8%
	その他(末尾に掲載)	12	2.7%
問23 在宅訪問を行っていますか。	行っている	277	61.4%
	かつて行っていた	32	7.1%
	行っていない	142	31.5%
問24 在宅訪問時に残薬がある場合、その解消のため薬局で取り組んでいることや工夫していることがあれば教えてください。	(末尾に掲載)	162	35.9%

問22 残薬がある場合、主にどのような対応を行うか



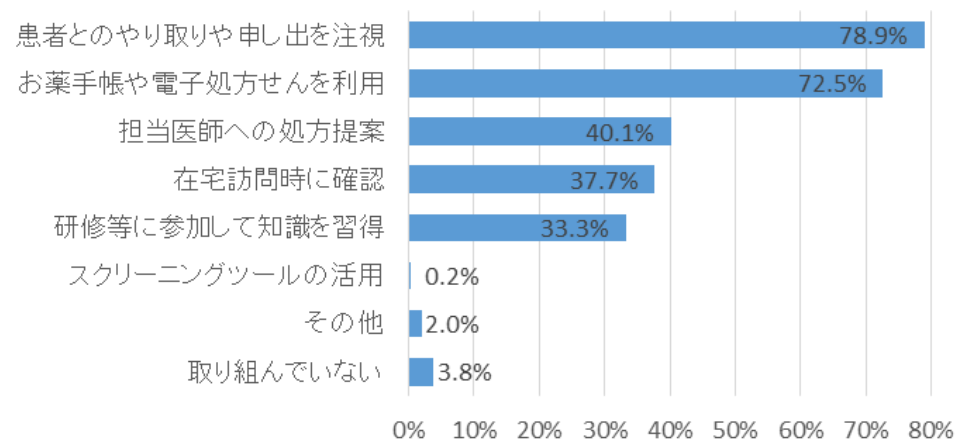
問23 在宅訪問



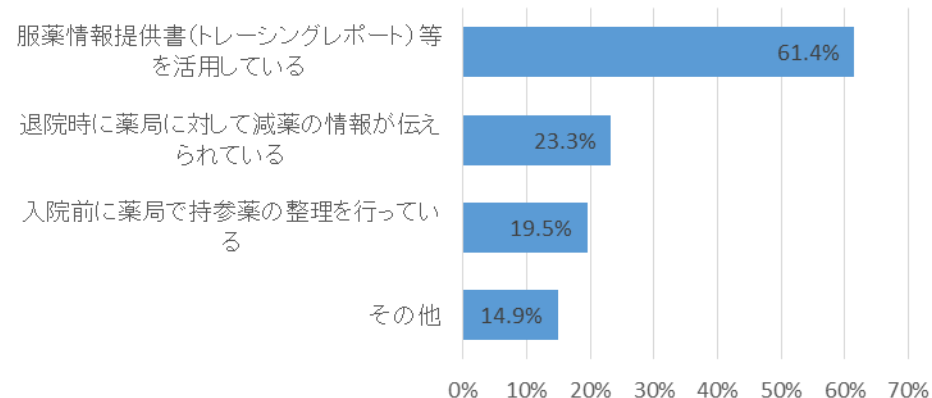
質問	回答	回答数	割合
問25 貴局ではポリファーマシー対策としてどのような取り組みを行っていますか（複数回答可）	患者とのやり取りや申し出を注視	356	78.9%
	お薬手帳や電子処方せんを利用	327	72.5%
	担当医師への処方提案	181	40.1%
	在宅訪問時に確認	170	37.7%
	研修等に参加して知識を習得	150	33.3%
	スクリーニングツールの活用	1	0.2%
	その他(末尾に掲載)	9	2.0%
	取り組んでいない	17	3.8%

問26 ポリファーマシー対策としてクリニック／病院等と連携して取り組んでいることや工夫していることがあれば教えてください（複数回答可）。	服薬情報提供書(トレーシングレポート)等を活用している	277	61.4%
	退院時に薬局に対して減薬の情報が伝えられている	105	23.3%
	入院前に薬局で持参薬の整理を行っている	88	19.5%
	その他(末尾記載)	67	14.9%

問25 ポリファーマシー対策としてどのような取り組みを行っていますか

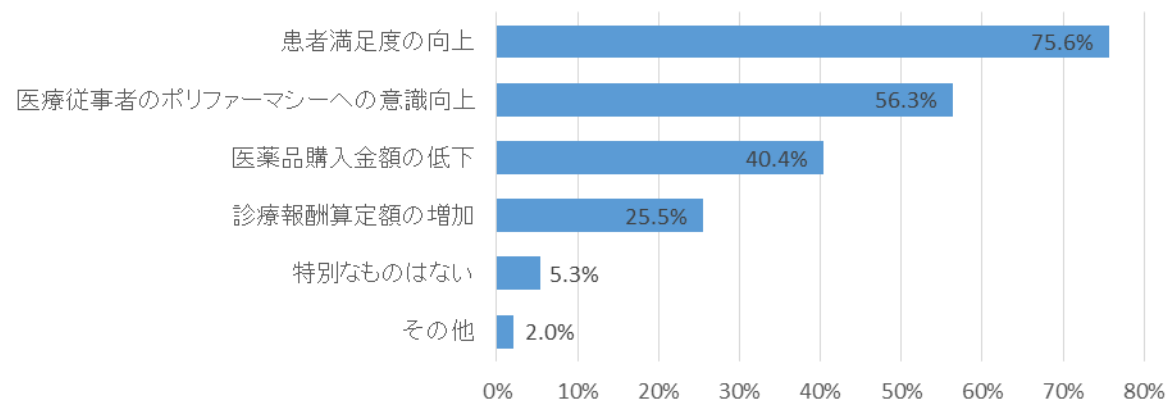


問26 ポリファーマシー対策としてクリニック／病院等と連携して取り組んでいることや工夫していること



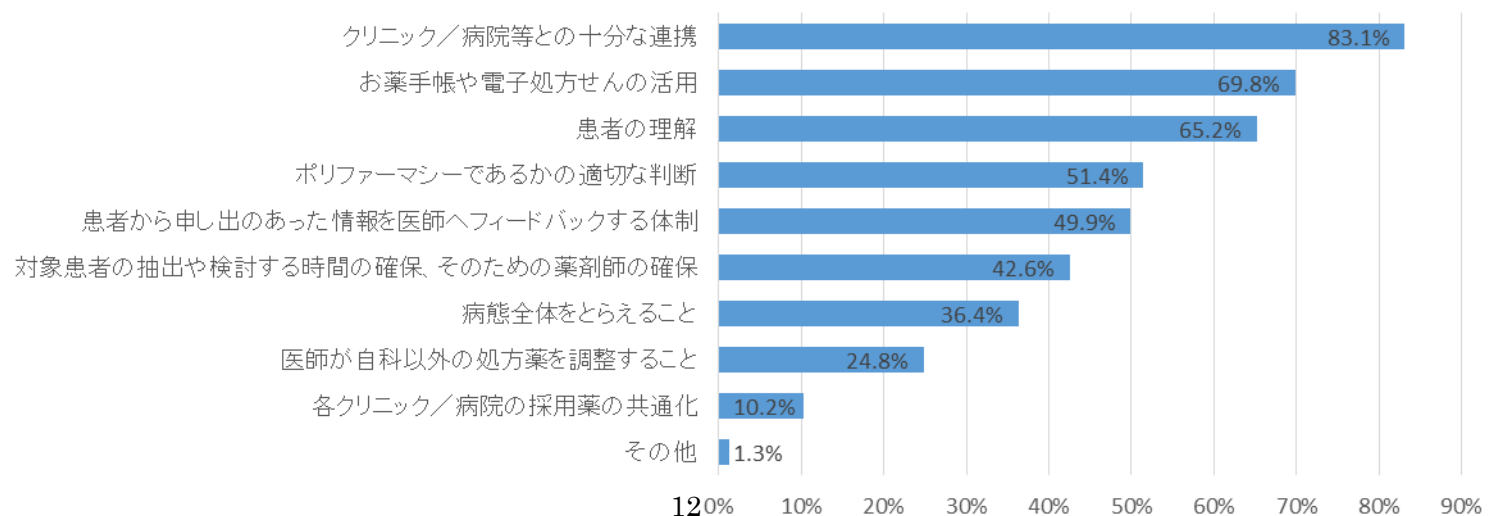
質問	回答	回答数	割合
問27 薬局でポリファーマシー対策に取り組んだ場合に、ポリファーマシー解消のほか、どのような効果が期待されますか	患者満足度の向上	341	75.6%
	医療従事者のポリファーマシーへの意識向上	254	56.3%
	医薬品購入金額の低下	182	40.4%
	診療報酬算定額の増加	115	25.5%
	特別なものはない	24	5.3%
	その他	9	2.0%

問27 薬局でポリファーマシー対策に取り組んだ場合に、ポリファーマシー解消のほか、どのような効果が期待されますか



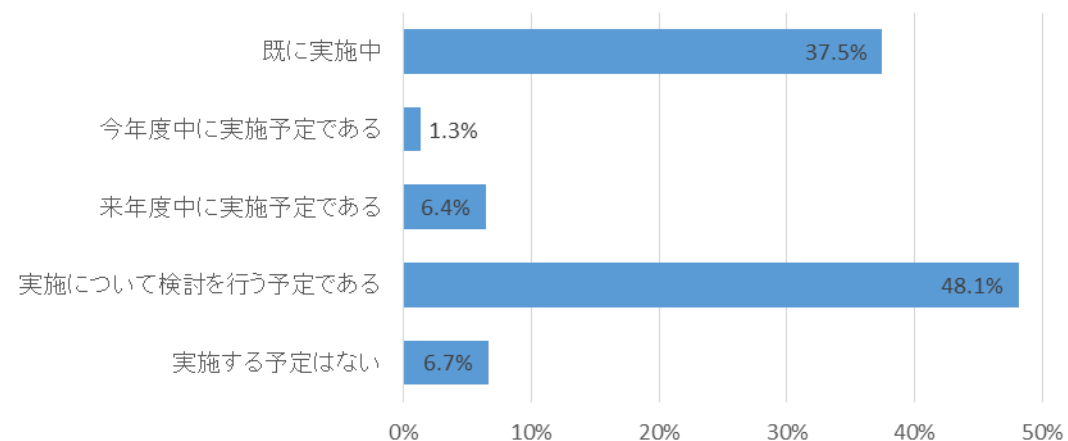
質問	回答	回答数	割合
問28 ポリファーマシー対策に取り組むにあたって必要な点	クリニック／病院等との十分な連携	375	83.1%
	お薬手帳や電子処方せんの活用	315	69.8%
	患者の理解	294	65.2%
	ポリファーマシーであるかの適切な判断	232	51.4%
	患者から申し出のあった情報を医師へフィードバックする体制	225	49.9%
	対象患者の抽出や検討する時間の確保、そのための薬剤師の確保	192	42.6%
	病態全体をとらえること	164	36.4%
	医師が自科以外の処方薬を調整すること	112	24.8%
	各クリニック／病院の採用薬の共通化	46	10.2%
	その他	6	1.3%

問28 ポリファーマシー対策に取り組むにあたって必要な点



質問	回答	回答数	割合
問29	ポリファーマシー（末尾に掲載） 対策に取り組む 上で、行政への 支援として求め るもの	74	16.4%
問30	ポリファーマシー 対策に取り組む 将来的な見通し	既に実施中	169 37.5%
		今年度中に実施予定である	6 1.3%
		来年度中に実施予定である	29 6.4%
		実施について検討を行う予 定である	217 48.1%
		実施する予定はない	30 6.7%

問30 ポリファーマシー対策に取り組む将来的な見通し



問 22 において、「その他」の場合詳細を入力してください。(抜粋)

- 処方薬の用法の見直しを医師に提案
- 服薬状況を確認に用法変更を医師に提案 情報提供提出
- 患者自身で数えてきてもらい、自身で医師に伝えてもらう
- 生活状況や薬に対する想いの確認を行う。
- 「持って来てください」と依頼する。
- プロトコルで残薬調整
- PTP 管理の方であれば一包化の提案を行う。
- 薬剤数に関係なく1回分服用を分包したり、分包紙に日付や用法を印字する。ライフスタイルに合わせて服薬回数を医師に相談して薬剤の変更等を行う。(1日2食なら服薬も1日2回に)
- 調剤・管理方法を変更する。特に、他科・複数診療科受診患者で処方日数にバラツキがある方の残薬が多いため、それらを一包化し、端数は薬局で預かり次回処方時に同様に全てを一包化することで自宅に端数を置かないようにする。

問 24 在宅訪問時に残薬がある場合、その解消のため薬局で取り組んでいることや工夫していることがあれば教えてください。(抜粋)

- 飲み忘れないように一包化等、一包化に関する工夫
- ケアマネ、看護師と情報交換をしている。等、医師、看護師、ケアマネージャー、介護士、ヘルパーとの連携
- お薬カレンダーで管理し服用状況を確認している。等、服薬カレンダーに関する工夫
- 服薬回数、剤形変更等の処方提案。
- 患者の申し出、特に副作用情報に繋がるものに注意する。
- 訪問予定日のより前に服薬状況を確認に行く。
- 投薬時に7日単位にする等渡し方を工夫。
- 服薬支援ロボ、服薬支援機械の導入。

問 25 において、「その他」の場合詳細を入力してください。(抜粋)

- 病状の確認を行う。漫然と胃薬や痛み止め等が処方されていても、調子良ければ医師に報告する。
- 調剤・管理方法を変更する。特に、他科・複数診療科受診患者で処方日数にバラツキがある方の残薬が多いため、全てを一包化し、端数日数分は薬局で預かり、次回処方時に同様に全てを一包化することで自宅に端数を置かないようにする。
- 訪問看護師と情報交換し、連携を取る。
- 情報提供
- 家族の方などに提案
- 患者に受診時に医師に相談するように提言している。

問 26 において、「その他」の場合詳細を入力してください。(抜粋)

- お薬手帳を活用している。
- 病院へ残薬の調整依頼
- 残薬調節。他科との重複薬の確認。
- 居宅療養管理指導で、クリニックと共同して、処方薬について検討している
- 10 種類以上服用中の患者に、何か症状が出たらポリファーマシーのことをまず知ってもらって医師に相談するように勧めています。
- 入院時に服用している薬剤名、服用状況の情報提供を出す
- 退院後の受診時に情報提供書をかかりつけ病院に見せてもらう。
- 医師自身が減薬に前向きであり、処方に対して薬剤師の意見が通りにくいため、取り組めていない
- 処方権は、医師にあるので越権行為と言われた事があるので踏み込んだ意見を言えない。
- 提案しても聞き入れられない場合が多いため、何も行っていない。

問 27 において、「その他」の場合詳細を入力してください。(抜粋)

- 無駄な医療費の削減
- 薬代の減額
- 患者負担の軽減(服用回数・服用錠数などを負担に感じている患者さんに対して)
- 残薬および薬物治療に対する患者の意識レベルの変化
- 副作用の軽減と適正な医療の向上

問 29 ポリファーマシー対策に取り組む上で、行政への支援として求めるものがあれば記載してください。(抜粋)

- 行政の力で、関係する方々を集めて、少しずつ議論して進めていく事が、薬の整理、ポリファーマシーに繋がると考えます、等啓発活動全般に係る内容
- 医師の意識改革が必要と考えます。処方権は医師にあるので、医師側からのアプローチが必要なのではないでしょうか、等医師側への啓発活動
- 患者さんはお薬を服用したいと思っている方が多く、また医師も減量による症状の悪化や再発を懸念されていることが多く、特に患者さんに対してのアナウンスが必要だと思われる、等患者側への啓発活動

- マイナや電子処方箋システム等の利用で、処方入力時すぐに重複のアラームがなる等徹底したシステムの構築を期待します、等マイナ保険証、電子処方箋に係る内容
- 投与開始時の処方意図が分かれば、減薬の際の参考になると思われます。
- 算定基準をもっと簡便にしてほしい。2剤ではなく、まずは1剤からでも点数があれば、もっと推進できるのではと思われます、等算定要件の見直しに係る内容
- 残薬調整運動。お薬連絡バッグを作成活用。
- かかりつけ薬局/薬剤師を持ってもらう
- 複数医療機関の受診を控えて、なるべくかかりつけ医を中心に診察をしてもらい必要に応じて紹介の上専門科の受診をするように指導して欲しい
- スイッチ OTC の薬価収載削除
- 地域での採用薬の共通化、いわゆるフォーミュラリーに関しては、薬剤師会として取り組むにもかなりハードルが高く感じる。各医療機関への情報提供などは、継続的に行って欲しい。
- 薬の安定供給を是非お願いいたします。
- 生活保護の方に5種類以上は有料とか設定を作ると必ず減ると思う。